

様式1

令和4年度 学校評価表

学校教育目標		確かな学力と豊かな心をもち、たくましく生きる子供の育成										～ かしこく・やさしく・たくましく ～				
a ミッション		中学校区で取り組む『志プロジェクト』の推進					a ビジョン		学んでよかった・通わせてよかったと思っただけの学校に					尾道市立西藤小学校		
評価計画						自己評価				学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 h 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案		
										イ	ロ	ハ				
確かな学力	かしこく	基礎・基本の 確実な定着	個に応じた指導の充実 ・実態に応じた指導の工夫 ・間違い直しの徹底 主体的・対話的で深い学びの推進 ・授業改善、授業研究	・算数科の単元末テスト（知識技能）の平均点が85点をこえる児童の割合	80%	67%	84	B	・算数科の単元末テスト（知識・技能）の平均点が85点をこえる児童の割合は、学校全体で67%だった。 ・算数科の単元末テスト（知識・技能）の平均点が90点以下の児童の割合は、学校全体で6%であり、ほとんどの学年が達成することができた。 ・7月時点で、授業者として2回以上の授業研究や授業交流ができていた学校は4学校だった。全ての学校の教員が2回以上授業参観をすることができたが、授業者としての達成はできなかった。	3	イ	ロ	ハ	・指導の工夫や間違い直しの徹底など、きめ細かくよく取り組まれていると思います。 ・算数科の単元末テストの平均点が85点をこえた児童の割合が60%未満である3年生と6年生については、特にどこにたすきがあるのか家庭の様子も含めて先生と保護者で共有し、強化していただきたいと思います。 ・大変よいと思いますが、算数科（知識・技能）の平均点をこえる児童の割合を目標値の80%になるよう頑張ってください。 ・課題のある児童に対し、個別指導等で基礎学力の定着をお願いします。	・児童それぞれの課題に応じて学力を伸ばしていけるように、授業で個別最適な学びの実現を目指して授業改善を行い、算数科の単元末テスト（知識・技能）の平均点が85点をこえた児童の割合を増やしていく。 ・引き続き、算数科の単元末テスト（知識・技能）の平均点が60点以下の児童に対する個別の指導を行う。 ・単元末テストや昨年度の標準学力調査の結果などから、児童の課題を分析し、全体での指導に生かす。 ・研究授業だけでなく、模擬授業や普段の授業を教職員同士で積極的にお互いに参観し合うことで、授業力の向上を目指す。	
				・算数科の単元末テスト（知識技能）の平均点が60点以下の児童の割合	10%	6%	100	A								
				・前期・後期各2回以上、授業研究や授業交流をする。	100%	70%	70	C								
豊かな心	やさしく	お互いの良さを認め合い、相手や時と場に応じた生活ができる児童の育成	声が掛け合えるつながり作り ・挨拶運動 ・ありがとう・いいね箱 ・異学年交流	・月毎に設定する挨拶のレベルを80%以上達成した児童の割合	80%	83.5%	104	A	・あいさつのレベルを達成した児童の割合は83.5%であった。（全校） ・レベル5の「ひととそえて」のあいさつは、低学年と高学年では達成率に差があった。 ・中学校区で、レベル4の「自分からあいさつ」をすることを特に重点化して取り組んでいく。 ・7月は地域の方々にご協力いただいたことで、子供達の意欲も高まり、いつも以上に活気のある挨拶週間になった。特に色んな色の「がんばったねカード」が貼られている児童もいて、他学年とのつながりにも効果があった。	3	イ	ロ	ハ	・工夫されてよく取り組まれていると思います。子供たちの意欲も高まり、活気のある挨拶週間になったのは素晴らしいと思います。挨拶が飛び交う環境が「全力・感動・挑戦」につながると思うので、継続してお願いします。 ・あいさつ運動は児童会を中心にとってもよく頑張っており、その成果が可視化される取組もよいと思うので、継続して頑張ってください。 ・コロナ禍ではありますが、少人数の西語だからこそ、学年以外の縦のつながり、地域の人々との交流を増やせるといいと思う。 ・挨拶は児童側から声をかけられ、大変よいです。低学年も6月頃からよく挨拶するようになりました。	・7月に地域の方に協力していただいたことを今後も継続してお願いし、児童の挨拶を地域の方へも広げ、日常的に他者へ挨拶をすることが当たり前になるようにしていく。 ・頑張っている児童の「振り返りカード」の写真を掲示している所の写真などを校内に掲示していく。 ・今後も継続して、月1回の挨拶週間に設定し、活気のある挨拶週間にしていく。	
				・新体力テストの課題種目に関連した運動を毎日行った児童の割合（7月）	70%	82%	117	A								
				・新体力テストで課題となった種目について、全国平均を上回る児童の割合（1月）	70%	82%	117	A								
確かな体の育成	たくましく	健康で たくましい 体の育成	継続的な取組による体力の向上 ・記録改善シートの活用 ・継続的な体力づくり	・新体力テストの課題種目に関連した運動を毎日行った児童の割合（7月）	70%	82%	117	A	・学校で課題となる種目に関連した運動に毎日取り組んだ。 第1、4学年 「回復機とび」 第2、6学年 「長座体前屈」 第3、5学年 「握力」 ・各学年で課題となる種目に関連した運動に朝の時間などで取り組むことができた。 ・課題となる種目に関連した運動に取り組みながら、全国平均を上回る児童の割合を達成することができた。 ・学年の実態に合った運動を模索しながら2学期以降も継続して取組を行っている。	3	イ	ロ	ハ	・コロナ禍でさまざまな困難に直面しながらも体力向上に向けて日々取り組まれ、達成度も高くよいと思います。 ・今年度の選定では、これまでと違って歩く距離の伸び、運動する機会が減っている児童にとって体力の向上に関する取組につながったのではないかと。 ・体力テストで課題となった種目についてあるいはその他でも、夏休みなどの長期休暇も利用して、取り組むのもよいと思う。 ・新型コロナウイルス感染症や新校舎増築工事等何かと制限がある中で大変と思いますが、課題種目や記録会に向け、継続して頑張ってください。	・引き続き、毎日の朝の時間などで課題種目に関連する運動に継続的に取り組んでいく。 ・体育の時間の指導方法を工夫し、45分中30分程度は児童の運動量を確保していく。 ・より効果の高い運動があれば全体で共有し、取り組んでいく。 ・運動会などの学校行事の実施方法を工夫し、より児童が主体的に運動を楽しめるようにしていく。	
				・新体力テストで課題となった種目について、全国平均を上回る児童の割合（1月）	70%	82%	117	A								
				・新体力テストで課題となった種目について、全国平均を上回る児童の割合（1月）	70%	82%	117	A								

【自己評価 評価】

A: 100% (目標達成)  
C: 60% (もう少し) < 80

B: 80% (ほぼ達成) < 100  
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。

様式1

令和4年度 学校評価表

学校教育目標	確かな学力と豊かな心をもち、たくましく生きる子供の育成	～ かしこく・やさしく・たくましく ～
--------	-----------------------------	---------------------

a ミッション	中学校区で取り組む『志プロジェクト』の推進	a ビジョン	学んでよかった・通わせてよかったと思っていただける学校に
---------	-----------------------	--------	------------------------------

尾道市立西藤小学校

評価計画				自己評価						学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
確かな学力	かしこく	基礎・基本の 確実な定着	個に応じた指導の充実 ・実態に応じた指導の工夫 ・間違い直しの徹底  主体的・対話的で深い学びの推進 ・授業改善，授業研究	・算数科の単元末テスト（知識技能）の平均点が85点をこえる児童の割合	80%	67%	71%	89	B	・算数科の単元末テスト（知識・技能）の平均点が85点をこえた児童の割合は、学校全体で71%だった。 ・算数科の単元末テスト（知識・技能）の平均点が60点以下の児童の割合は、学校全体で6%であり、ほとんどの学年が達成することができた。 ・後期は10学級中9学級で、2回以上授業研究や授業交流を実施することができた。	3			・個に応じた指導の成果が表れています。後期のほとんどの学級が2回以上授業研究や授業交流をするというよい結果が出ており、今後も継続することを望む。 ・教職員一丸となって個に応じた指導及び授業改善・授業研究など大変よく取り組まれていると思います。 ・授業の様子を動画で確認することは、客観的に評価ができていよと思っています。間違い直しの徹底については、ノートづくりなどの工夫もすれば、学力向上につながるのではないかと思います。	・児童それぞれの課題に応じて学力を伸ばしていきけるように、授業で個別最適な学びの実現を目指して授業改善を行い、算数科の単元末テスト（知識・技能）の平均点が85点をこえた児童の割合を増やしていく。 ・引き続き、算数科の単元末テスト（知識・技能）の平均点が60点以下の児童に対する個別の指導を行う。 ・単元末テストや12月に実施した標準学力調査の結果などから、児童の課題を分析し、個別の指導や全体での指導に生かす。 ・研究授業だけでなく、模擬授業や普段の授業を教職員同士で積極的にお互いに参観し合うことで、授業力の向上を目指す。
				・算数科の単元末テスト（知識技能）の平均点が60点以下の児童の割合	10%	6%	6%	100	A						
				・前期・後期各2回以上、授業研究や授業交流をする。	100%	70%	95%	95	B						
豊かな心	やさしく	お互いの良さを認め合い、相手や時と場に応じた生活ができる児童の育成	声が掛け合えるつながり作り ・挨拶運動 ・ありがとう・いいね箱 ・異学年交流	・月に設定する挨拶のレベルを80%以上達成した児童の割合	80%	83.5%	85.5%	107	A	・あいさつのレベルを達成した児童の割合は85.5%であった。（全校） ・5つの目標の中の1つ「自分から先にあいさつをしよう」を焦点化し取り組むことで、前期に比べ達成率が上がった。 ・7月以降、地域の方々にご協力いただいたことで、子供達の意欲も高まり、いつも以上に活気のある挨拶週間になった。特に色んな色の「がんばったねカード」が貼られている児童もいて、他学年とのつながりにも効果があった。 その一方で、慣れによる意欲低下が懸念される児童もいた。	3			・「がんばったねカード」の成果が表れて、今後も期待しています。 ・学校の多様な取組や地域との連携により、児童の挨拶に対する意欲が高まり、実践できたのはすばらしいと思います。これからも、学校・保護者・地域と連携し、声が掛け合えるつながり作りをお願いします。 ・あいさつ「がんばったねカード」やありがとう・いいね箱の取組は、可視化されていてよい。 ・コロナ禍でコミュニケーションが希薄化されており、感染対策を行いながら今後も「異学年交流・地域交流を増やしてほしい。西藤小は児童数も少なく、縦のつながりももちやすいと思います。	・7月以降、地域の方にもご協力いただき、児童の挨拶を地域へ広げ、日常的に他者へ挨拶をすることが当たり前になるように取り組んだ。その結果、多くの地域の方々から「小学校の挨拶が変わってきた」との評価を得た。 ・頑張っている児童の「振り返りカード」の写真を掲示したことで、児童の意欲につながった。 ・今後も、活発な挨拶の日常化を図り、活気のある児童を育成していく。 ・来年度はさらに目標値を高くして、地域とともに取り組むという形がとれれば有難い。
				・測定した児童のうち76.1%の児童が全国平均の数値を上回ることができた。 ・学級で課題となる種目に関連した運動に毎日取り組んだ。 第1、4学年 「反復横とび」 第2、6学年 「長座体前屈」 第3、5学年 「握力」 ・各学年で課題となる種目に関連した運動に朝の時間などで取り組むことができた。 ・次年度は記録向上ではなく、体育が好きな児童の割合が増えるように取組を行っていく。	70%	82%	76.1%	100	A						
確かな体の育成	たくましく	健康で たくましい 体の育成	継続的な取組による体力の向上 ・記録改善シートの活用 ・継続的な体力づくり	・新体力テストの課題種目に関連した運動を毎日行った児童の割合（7月）	70%	82%	76.1%	100	A	・測定した児童のうち76.1%の児童が全国平均の数値を上回ることができた。 ・学級で課題となる種目に関連した運動に毎日取り組んだ。 第1、4学年 「反復横とび」 第2、6学年 「長座体前屈」 第3、5学年 「握力」 ・各学年で課題となる種目に関連した運動に朝の時間などで取り組むことができた。 ・次年度は記録向上ではなく、体育が好きな児童の割合が増えるように取組を行っていく。	3			・コロナウイルスの影響下で、各学級で課題となる種目によく取り組み、よい成果が表れています。今後も継続してほしい。 ・コロナ禍でできることや課題、時間など工夫され、毎日継続して取り組まれたことにより児童は自信をもち、次のステップへの意欲につながっていると感じました。 ・今後も運動の習慣化を続け、体力・免疫カアップにつなげられるとよい。 ・運動が苦手な子もいるので、スポーツでなくても遊び・ゲーム感覚でできるものなど、楽しいと思える運動・自己肯定感が持てるようなかわりも必要かと思う。	・体育の時間の指導方法を工夫し、45分中30分程度は児童の運動量を確保していく。 ・より効果の高い運動があれば全体で共有し、取り組んでいく。 ・来年度は、運動好きの児童を増やすための取り組みを行っていく。
				・新体力テストで課題となった種目について、全国平均を上回る児童の割合（1月）	70%	82%	76.1%	100	A						

【自己評価 評価】  
 A：100≦（目標達成）  
 C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100  
 D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。

様式2

# 方策進行管理シート

令和4年度 尾道市西藤小学校

	目標達成のための方策	活動	4月	5月	6月	7月	活動達成度	方策達成度	取組評価
			目標数	目標数	目標数	目標数			
			達成数	達成数	達成数	達成数			
確かな学力	基礎・基本を定着させるための学習を徹底実行	算数科1単元内で個に応じた指導を1回以上実施する。(実施した学級数)	/	10	10	10	93.3%	93.3%	B
			/	8	10	10			
豊かな心	家庭や地域と連携した挨拶の取組	月ごとに設定したあいさつレベルへの取り組み方について、実態をもとに話し合っ決めて。(実施した学級数)	/	10	10	10	96.6%	96.6%	B
			/	9	10	10			
健やかな体	継続した取組による体力の向上	新体力テストの課題種目に関連した運動を毎日行う。(実施した学級数)	/	/	10	10	95%	95%	B
			/	/	9	10			

【取組評価】 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

様式2

# 方策進行管理シート

令和4年度 尾道市西藤小学校

	目標達成のための方策	活動	9月	10月	11月	12月	活動達成度	方策達成度	取組評価
			目標数	目標数	目標数	目標数			
			達成数	達成数	達成数	達成数			
確かな学力	基礎・基本を定着させるための学習を徹底実行	算数科1単元内で個に応じた指導を1回以上実施する。(実施した学級数)	10	10	10	10	100.0%	100.0%	A
			10	10	10	10			
豊かな心	家庭や地域と連携した挨拶の取組	月ごとに設定したあいさつレベルへの取り組み方について、実態をもとに話し合っ決めて。(実施した学級数)	10	10	10	10	100.0%	100.0%	A
			10	10	10	10			
健やかな体	継続した取組による体力の向上	新体力テストの課題種目に関連した運動を毎日行う。(実施した学級数)	10	10	10	10	100.0%	100.0%	A
			10	10	10	10			

【取組評価】 A: 100 ≤ (目標達成) B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100 C: 60 ≤ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60